

# チンゲン菜



## 育苗

移植栽培  
の場合

- ① 播種後の灌水の時 ➡ ● **根っ酵素1000倍液** → 発芽・発根を揃える。
- ② 発芽後の灌水の時 ➡ ● **花咲くCa液1000倍液** → 苗を充実させ、徒長させない。(2回)
- ③ (長期) 播種後25日 ➡ ● **アミノ酸液500倍** → 肥料(N)の補給。肥切れさせない。
- ④ 移植前5日(2.5葉) ➡ ● **花咲くCa液1000倍液** → 苗を充実させ、移植後の生育を強くする。
- ⑤ 移植(定植)後の灌水 ➡ ● **根っ酵素500~1000倍液** → 根張りを揃って強くする。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	<p>周年栽培では、年2回(次の播種前に日数が1ヶ月以上とれる時に)、右記資材を全面散布後、土壌全層に混ざるように耕起する</p> <p>年1回の場合は堆厩肥をなるべく増やし、他の資材は同量とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ラクトバチルス600g</b> → 保水性・排水性がよく、深く肥沃な土を作る。</li> <li>● <b>堆厩肥1トン</b>(なるべく2トン以上、年間2回) ※単作では播種1ヶ月前迄に堆厩肥などを投入して地力を作る ※周年栽培では、堆厩肥は出来るだけ年2回に分けて投入すると地力が安定する。 年1回の場合2トン(なるべく4トン以上)を投入する。</li> <li>● <b>硫安60kg</b>(複合肥料を使う場合は N成分:12kg) ※もし堆厩肥の量が少ない場合は、硫酸カリ20kg等も追加。</li> <li>● <b>畑の大将&lt;青&gt; 40kg</b>(土壌pH・Ca含有量により増量) ※チンゲン菜の好適pH範囲は広く(5.5~7.2)、酸性にも比較的強い作物。しかし栄養素としてのカルシウム要求量が多いので、深層までカルシウムを補給しておく、高品質の収穫が続く。實際上、土壌pH:5.5以下では生育が萎縮する。また根コブ病対策のためにpH:7.2程にしておくといわれているが、徒長しやすくなる。生育に良好なpH範囲は6.0~7.0が妥当。</li> </ul>
地力作り後の施肥	全面施用してベッド作り・播種	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>畑の大将&lt;青&gt; 20kg</b> (播種後、速効的に効かせる分のカルシウム) ※寒期などで、特に生長を速くしたい場合のみ硫安20kgも施用 ただし7日以上おいて、播種時には土壌EC:0.3以下にする事。</li> </ul>
周年栽培で、地力作りをしない <b>作付けごとの施肥</b>	全面散布して、耕し(土に混和し)、ベッドを作って軽く散水し、7日以上おいてから播種する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>硫安60kg</b>(ベッド内施肥の場合は40kg) ※N成分:12kgだが、複合肥料は土壌を不安定にして、酸性化・濃度障害を起しやすく、品質も劣化しやすいので、硫安を使う事。 ※カルテック栽培の土壌では7日後にはEC:0.3以下に安定する。 ※もし土中に微生物が乏しい心配のある場合は、ラクトバチルス400gを米ヌカ30kgに混合散布し、播種までに20日以上おく。</li> </ul>

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
周年栽培で、地力作りをしない 作付けごとの施肥	全面散布して、耕し(土に混和し)、ベッドを作って軽く散水し、7日以上おいてから播種する	●畑の大将<青> 40kg (土壌pHや前作の状態によって増量) ※特に高温期にはチッソは減らさずに、畑の大将<青> 60kgを必ず施用し、節間伸長や葉先枯れ・軟腐病を防ぎ、高品質な収穫を狙う。
	★マンゾク粒状は状況によって加える	●マンゾク粒状30~50kg →根を強く働かせ、生長を旺盛にする。 ※特に根コブや根腐れ、冬期の生長遅滞や抽ダイが心配な場合に使用。
(本圃) 生育途中	[直蒔きの場合] ①播種後の灌水の時 (播種後は過湿にしない事)	●根っ酵素1000倍液 →発芽・発根を揃え、根張りを強くする。 ※特に根腐れ・根コブ・連作障害が心配なら、10アール当り2~5ℓを灌水。 ※播種後~本葉4枚(間引き)までに、もし生育が悪ければ、酵素液を灌水。 ※もし徒長が心配な場合は、花咲くCa液1000倍を灌水、または葉面散布。
	本葉3枚以降 ②生育中 Ca定期散布、及び適宜の散布(状態により調節)	●花咲くCa液500倍液を葉面散布 7日(少なくとも15日)間隔で。 ※葉が厚く充実し、草姿は立ち胴がくびれて、株が張る。軟腐対策にも。
	③仕上げの葉面散布	●根っ酵素500倍液を葉面散布(Caと交互に15日ごと) ※多雨時などの根腐れ、乾燥時などの葉先枯れ(チップバーン)、根コブに対しては、原液2~10ℓの灌水または灌注(300倍前後)で回復させる。  ●アミノ酸液500倍 →肥料補給。肥切れ・白サビを出さない。
		①収穫10日前 ●アミノ酸液500倍 →鮮緑色を濃くする。 ②収穫5日前 ●花咲くCa液500倍液 →旨味が増し、鮮度を保持。